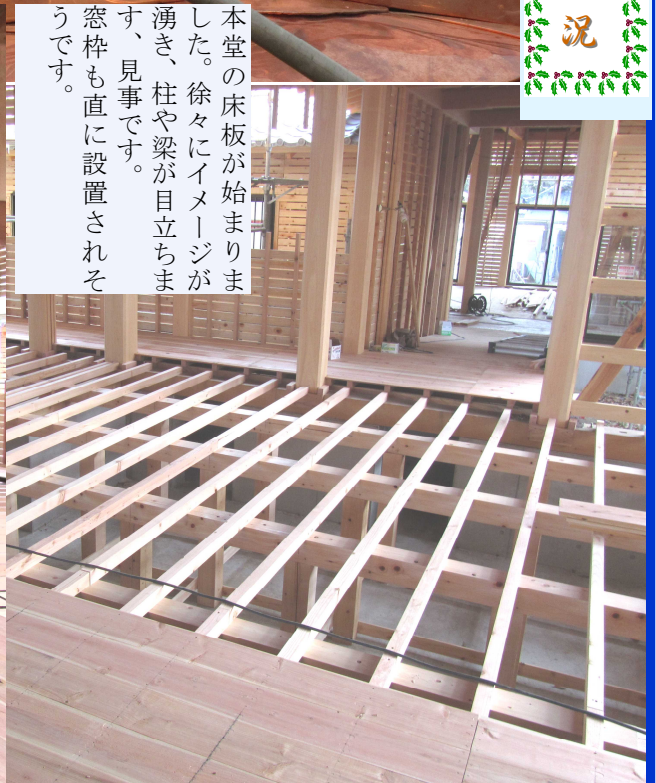




客殿の屋根工事、ほぼ完成しました。
客殿玄関、唐破風の鬼瓦です。



本堂客殿建設進捗状況



本堂の床板が始まりました。徐々にイメージが湧き、柱や梁が目立ちます、見事です。
窓枠も直に設置されそうです。

寿楽院本堂客殿建設作業現場

られるとされており、日本では和歌山県的那智山、栃木県日光の男体山が補陀落山とされています。密教では、頭に宝冠をかぶり、左手で開きかけた蓮華を持ち、右手は説法の印（人差し指と親指をあわす）をしています。私たちの心のなかにある清らかな仏心と呼びさすまでくださるという意味です。亡き人は観音さまによって、さらにいっそう慈悲の心を育成されていくこととなります。観音さまは三十三に身を変えて救ってくださいます。観音さまほど頼りになる、導きの力強さを感じさせてくれる仏さまはありません。ですから、観音さまはとも多くの人たちに信仰され頼られています。亡き人も、七・七日忌（四十九周忌）までのきびしい導きから、百ヶ日忌までの観音さまの導きにはほっとされるのではないのでしょうか。観音さまのように心のやさしい人になりたいものです。



観音菩薩は、仏様の慈愛のこころを象徴した仏さまです。正式には観世音菩薩、または観自在菩薩といわれます。観音様には実に多くの種類の観音さまがあります。三十三に身を変えて人々を救ってくださいという事で、三十三の変化観音もあります。一般的には六観音（または七観音）として親しまれています。六道の世界との関係は、次のように担当が決まっています。地獄・聖観音基本のお姿、餓鬼・千手観音（手が千本あるお姿）、畜生・馬頭観音（馬の頭のお姿）、阿修羅・十一面観音（十一の面のお姿）、人・准胝観音（不空羼索観音）（三目十八臂のお姿）、天・如意輪観音（六本の手、立て膝のお姿）。観音さまは補陀落山にお

十三仏の事典 百ヶ日忌の観音菩薩